

**ManpowerGroup
Employment
Outlook Survey
Japan**

**Q4
2019**



ManpowerGroup®

Japan Employment Outlook

日本における2019年第4四半期のマンパワーグループ雇用予測調査は、1,081社への聞き取り調査をもとに実施されました。

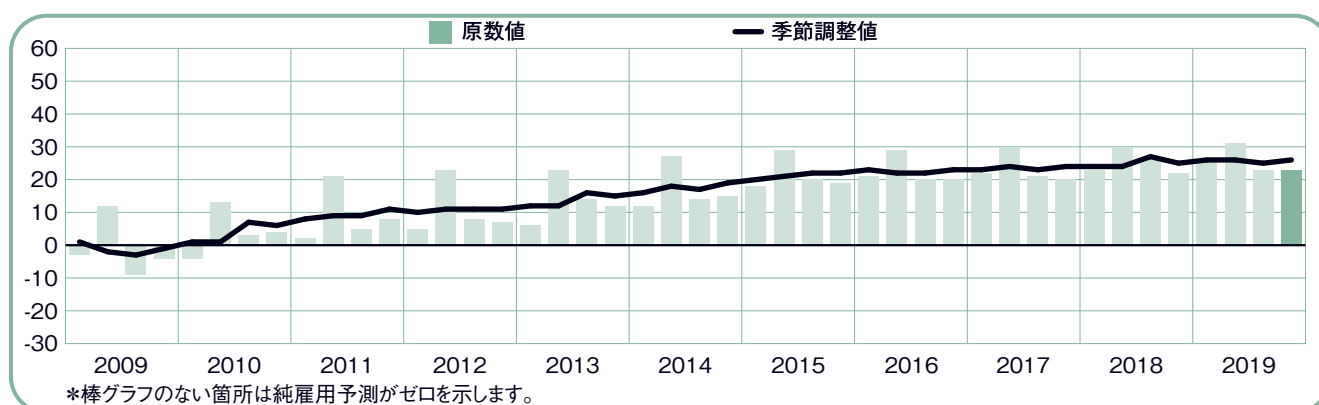
調査にあたっては、すべての回答者に、「2019年10月から12月の貴社または貴機関の雇用計画は、今期と比べてどのように変化しますか?」という質問をしています。

目次

| | |
|---------------|----|
| 日本の雇用予測 | 1 |
| 組織規模別比較 | |
| 地域別比較 | |
| 業種別比較 | |
| 世界の雇用予測 | 9 |
| この調査について | 11 |
| マンパワーグループについて | 12 |

日本の雇用予測

| | 増加 | 減少 | 変化なし | 不明 | 原数値 (季節調整前の値) | 季節調整値 |
|---------------|-----------|----------|-----------|-----------|------------------|-----------|
| | % | % | % | % | % | % |
| 2019年 10月～12月 | 27 | 4 | 41 | 28 | 23 | 26 |
| 2019年 7月～9月 | 27 | 4 | 42 | 27 | 23 | 25 |
| 2019年 4月～6月 | 35 | 4 | 35 | 26 | 31 | 26 |
| 2019年 1月～3月 | 30 | 4 | 39 | 27 | 26 | 26 |
| 2018年 10月～12月 | 25 | 3 | 42 | 30 | 22 | 25 |



2019年第4四半期の日本の労働市場には楽観的な雇用意欲が見込まれています。調査対象組織のうち、「増員する」と回答したのが27%、「減員する」が4%、「変化なし」が41%でした。この結果、純雇用予測は+23%となっています。

季節調整後の値では、純雇用予測は+26%でした。雇用意欲は、前四半期比および前年同期比ともに比較的安定して推移しています。

本調査では「純雇用予測」という用語を使用しています。これは、来四半期に「増員する」と回答した企業の割合(%)から、「減員する」と回答した企業の割合(%)を引いた値です。こうして算出した値が純雇用予測となります。

以降、本文書の解説に使用される数値は、特に注意書きがない限り、すべて季節調整後の値です。

※) 季節調整値について

新卒採用など、雇用活動の季節的な変化による影響を排するように調整を加えた純雇用予測。

組織規模別比較

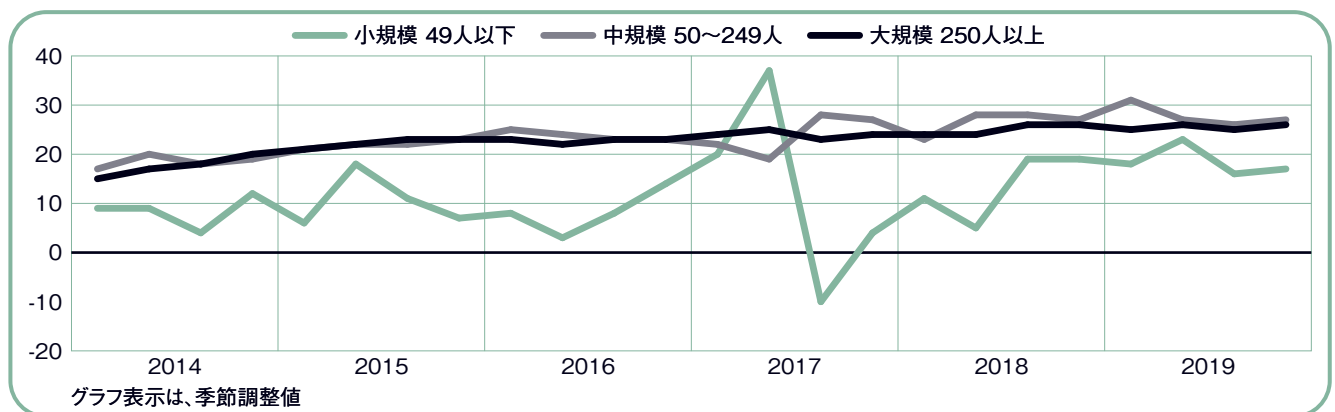
調査対象組織は、従業員数49人以下の小規模組織、従業員数50～249人の中規模組織、および従業員数250人以上の大規模組織のいずれかのカテゴリーに分類されます。

2019年第4四半期の純雇用予測は、3カテゴリーすべてで、雇用の増加が見込まれます。最も好調な純雇用予測は中規模組織の+27%と大規模組織の+26%です。一方、小規模組織も+17%と好調な雇用情勢が期待されます。

純雇用予測は、前四半期比では3カテゴリーすべてで比較的安定して推移しています。

前年同期比では、小規模組織が2ポイントとわずかに減少していますが、中規模組織および大規模組織では変化なしとなっています。

| 組織規模 | | 増加 | 減少 | 変化なし | 不明 | 原数値 (季節調整前の値) | 季節調整値 |
|------|---------|----|----|------|----|------------------|-------|
| | | % | % | % | % | % | % |
| 小規模 | 49人以下 | 17 | 0 | 63 | 20 | 17 | 17 |
| 中規模 | 50～249人 | 25 | 3 | 50 | 22 | 22 | 27 |
| 大規模 | 250人以上 | 28 | 4 | 38 | 30 | 24 | 26 |

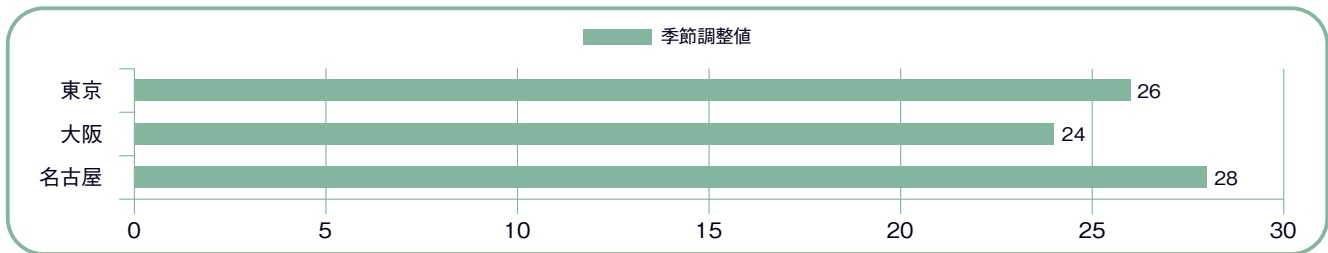


地域別比較

2019年第4四半期の純雇用予測は、3地域すべてで健全な雇用の増加が期待されます。最も高い雇用意欲が見込まれるのは名古屋で、純雇用予測は+28%です。東京の純雇用予測は+26%、大阪の純雇用予測は+24%となっています。

純雇用予測は、前四半期比では大阪が2ポイント改善しています。東京は比較的安定して推移していますが、名古屋は2ポイントとわずかに減少しています。

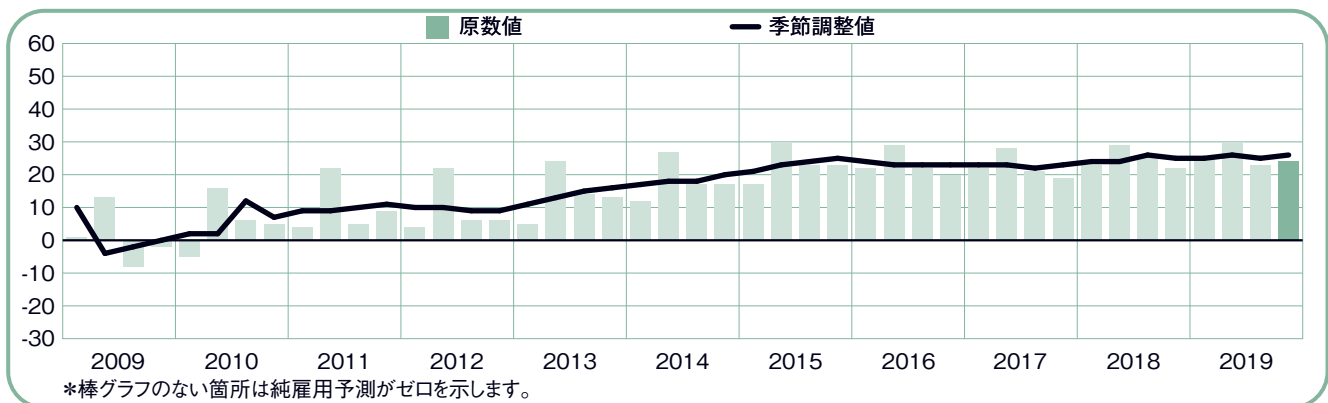
前年同期比では、大阪が2ポイントとわずかに減少しましたが、東京と名古屋の両地域では比較的安定して推移しています。



26%

東京

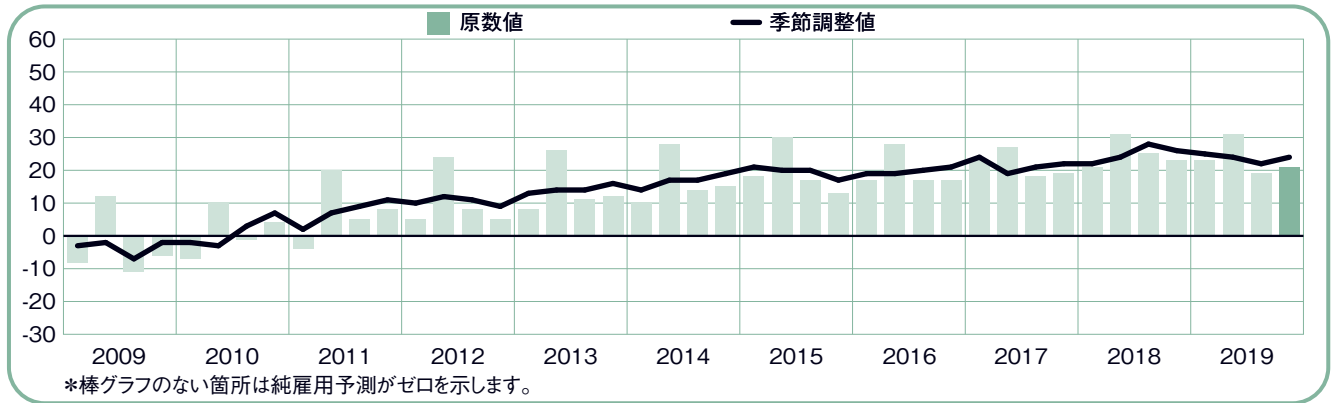
東京の来四半期の純雇用予測は+26%と、好調な雇用情勢が見込まれます。前四半期比および前年同期比ともに比較的安定して推移しています。



24%

大阪

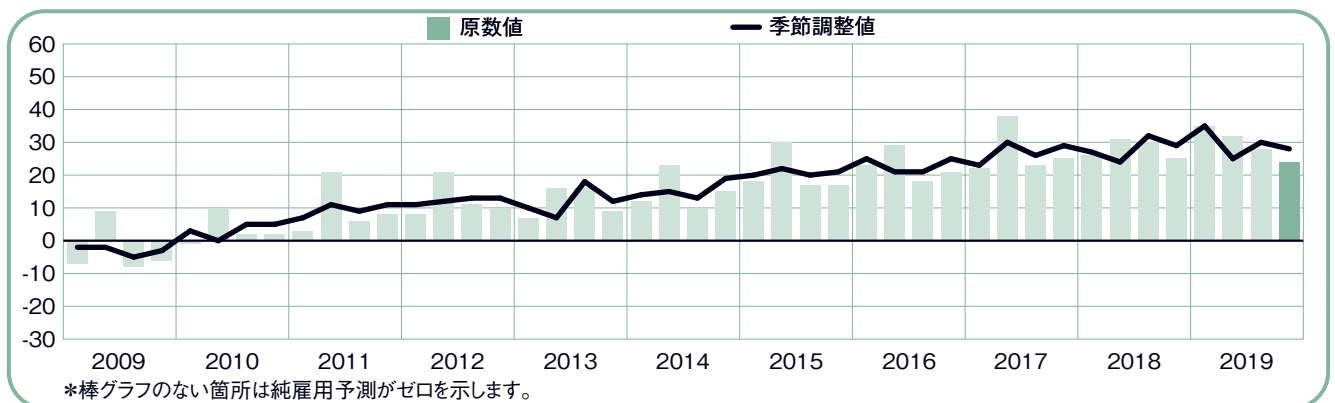
大阪の来四半期の純雇用予測は+24%と活発な雇用市場が期待できます。前四半期比では2ポイント増ですが、前年同期比では2ポイント減となっています。



28%

名古屋

名古屋の来四半期の純雇用予測は、+28%となっており、堅調な雇用が見込まれます。前四半期比では2ポイント減ですが、前年同期比では比較的安定して推移しています。

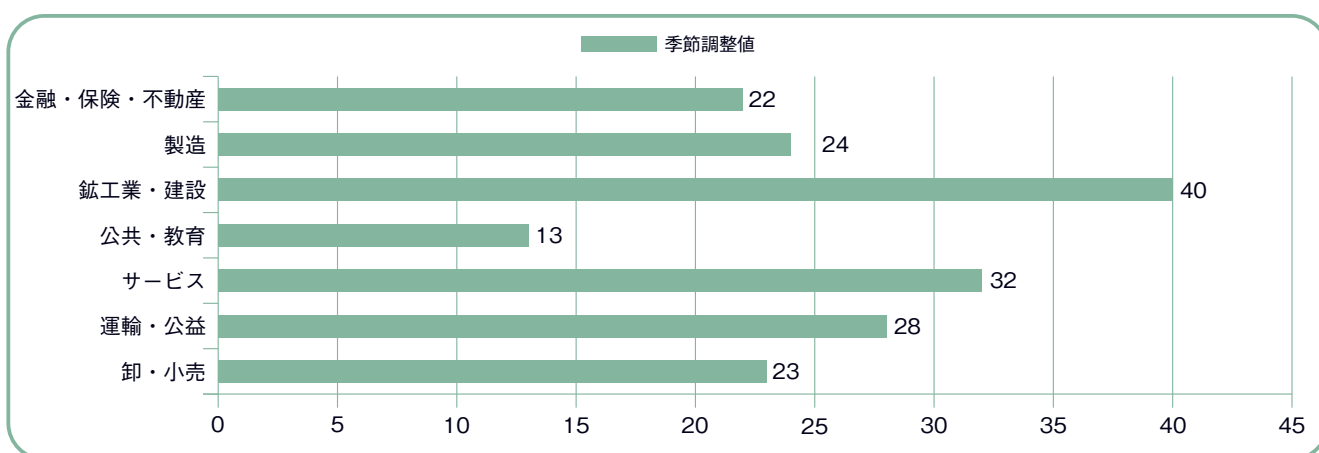


業種別比較

2019年第4四半期の純雇用予測は、7業種すべてでプラスとなっています。「鉱工業・建設」では+40%と活発な雇用情勢が期待されます。「サービス」も+32%と活発な雇用が見込まれ、「運輸・公益」の+28%も楽観的な雇用意欲を反映しています。「製造」は+24%、「卸・小売」は+23%とそれぞれ堅調な雇用市場が期待されます。「金融・保険・不動産」は+22%でした。一方で、最も低い雇用予測は「公共・教育」の+13%でした。

純雇用予測は、前四半期比では7業種中「金融・保険・不動産」、「公共・教育」、「サービス」と「卸・小売」の4業種で2ポイント改善しています。一方、「運輸・公益」では4ポイント減少しています。

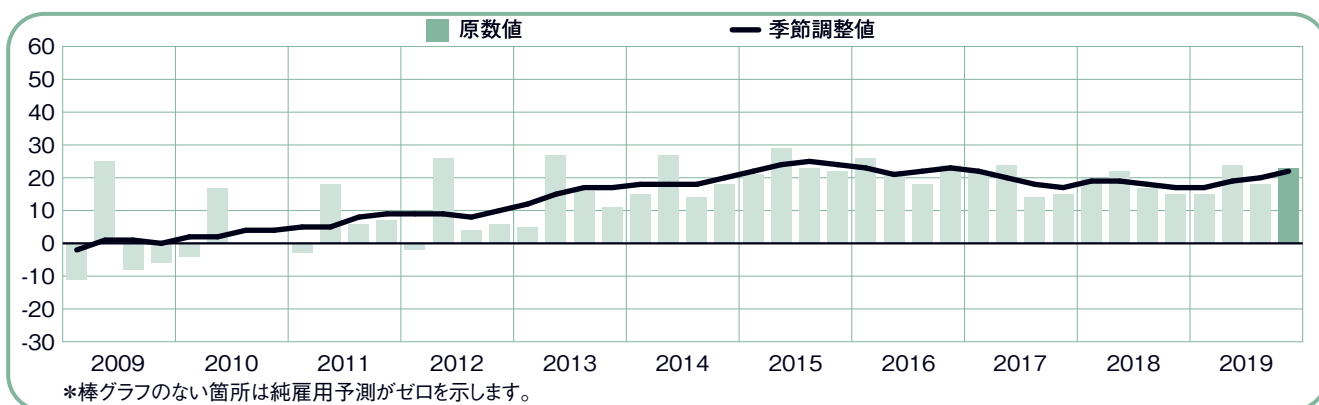
前年同期比では、7業種中2業種で緩やかに改善しており、「公共・教育」では8ポイント、「金融・保険・不動産」では5ポイント改善しています。一方で「運輸・公益」では4ポイント、「卸・小売」では3ポイント減少しています。



22%

金融・保険・不動産

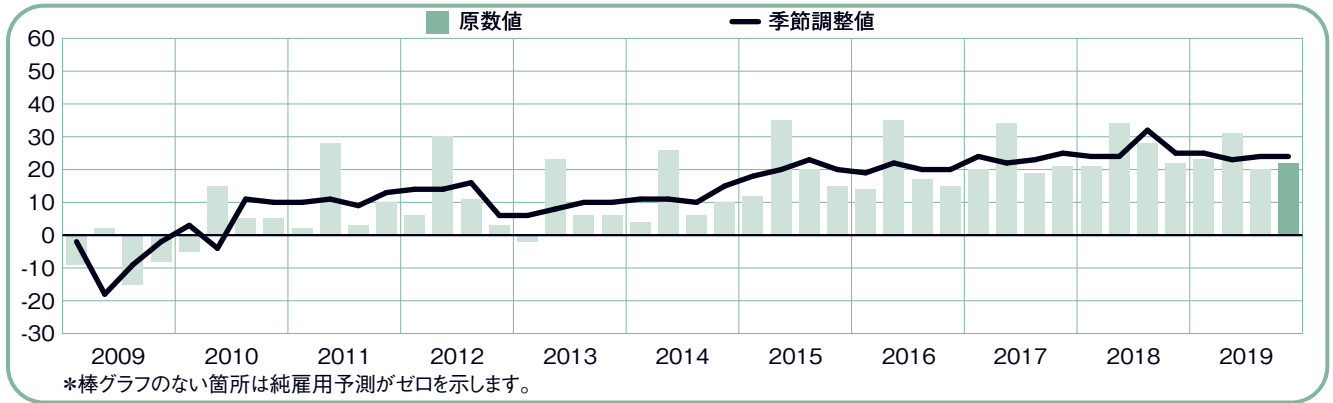
純雇用予測は+22%とここ2年間強で最も好調な雇用が見込まれます。前四半期比では2ポイント、前年同期比では5ポイントといずれも改善を見せています。



24%

製造

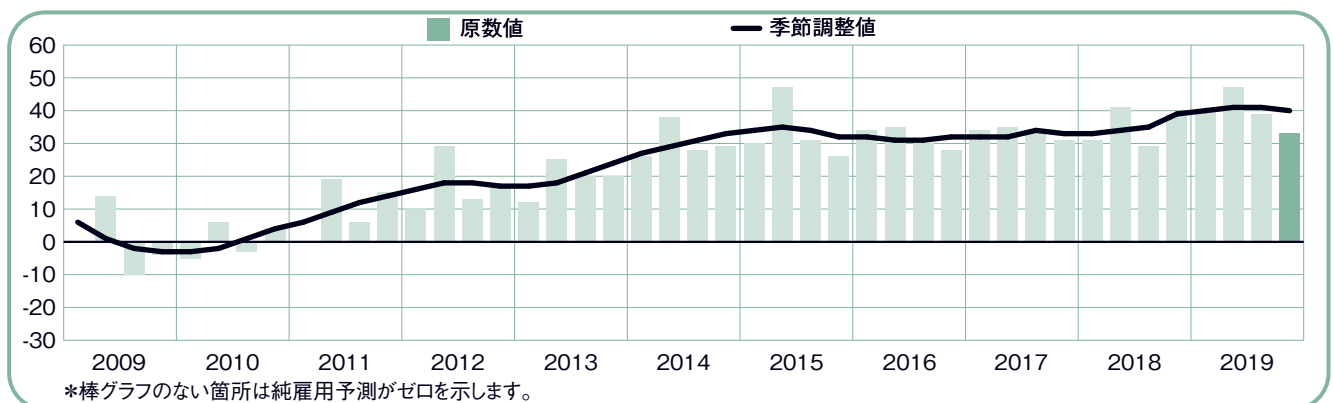
来四半期の純雇用予測は2四半期連続で+24%と、引き続き堅調な雇用の増加が期待できます。前年同期比では比較的安定して推移しています。



40%

鉱工業・建設

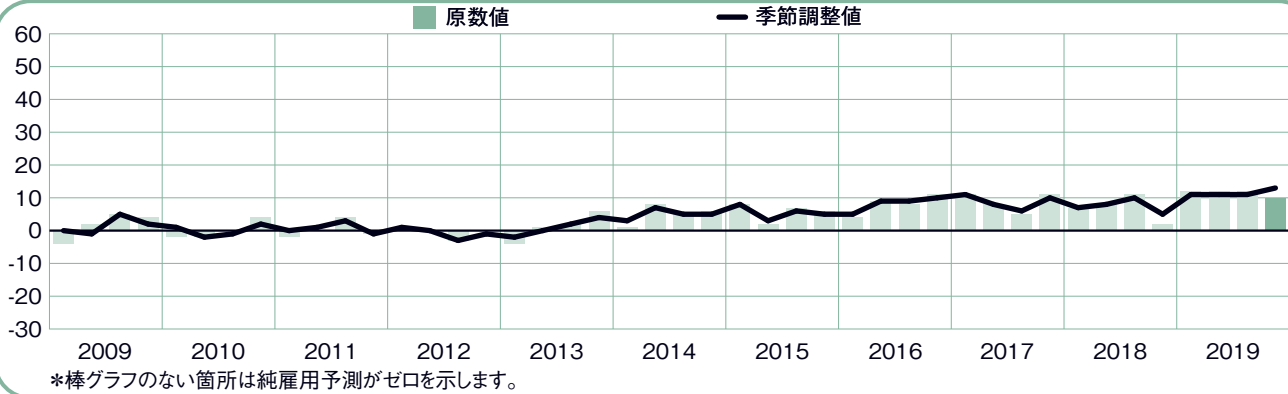
来四半期の純雇用予測は+40%で、引き続き好調な労働市場が予測されます。前四半期比および前年同期比ともに比較的安定して推移しています。



13%

公共・教育

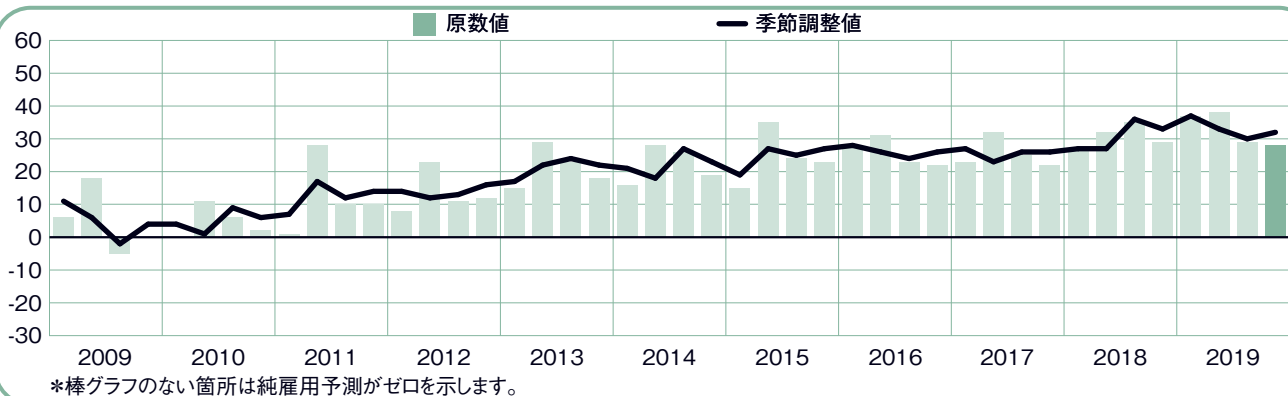
来四半期の純雇用予測は+13%となっており、ここ11年間で最も好調な雇用が予測されます。純雇用予測は、前四半期比では2ポイント改善し、前年同期比では8ポイント改善しています。



32%

サービス

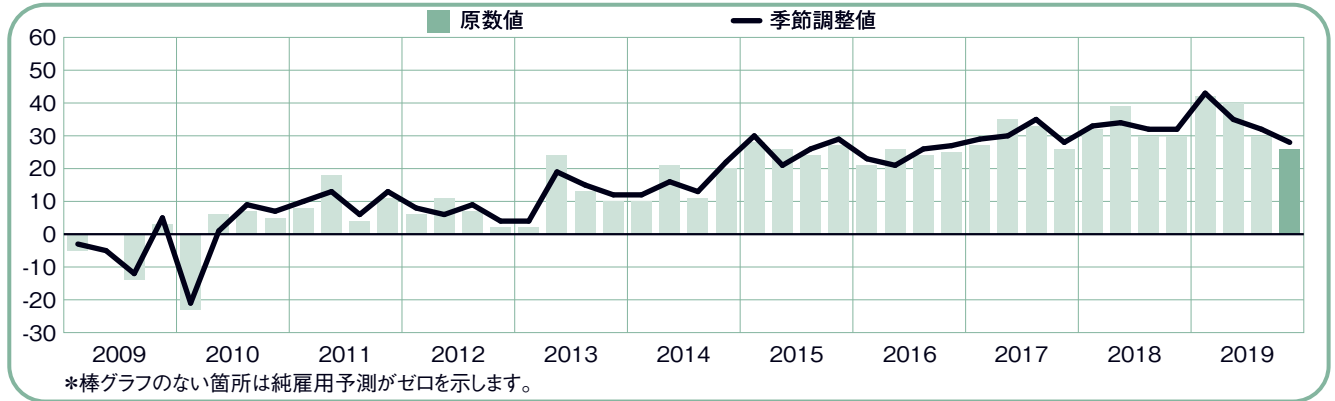
来四半期の純雇用予測は+32%と、安定した雇用の増加が予測されます。純雇用予測は、前四半期比では2ポイント改善し、前年同期比では比較的安定して推移しています。



28%

運輸・公益

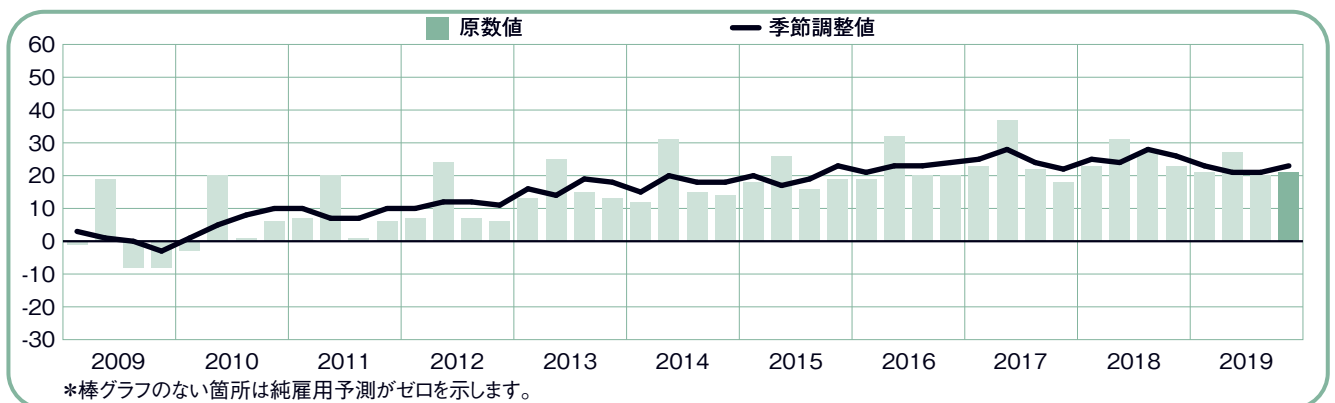
来四半期の純雇用予測は+28%と、楽観的な雇用意欲が見込まれます。しかしながら、純雇用予測は、前四半期比および前年同期比ともに4ポイント減少し、ここ2年間で最も弱い数字となっています。



23%

卸・小売

来四半期の純雇用予測は+23%となっており、活発な雇用市場が期待されます。前四半期比では2ポイント増ですが、前年同期比では3ポイント減少しています。



世界の雇用予測

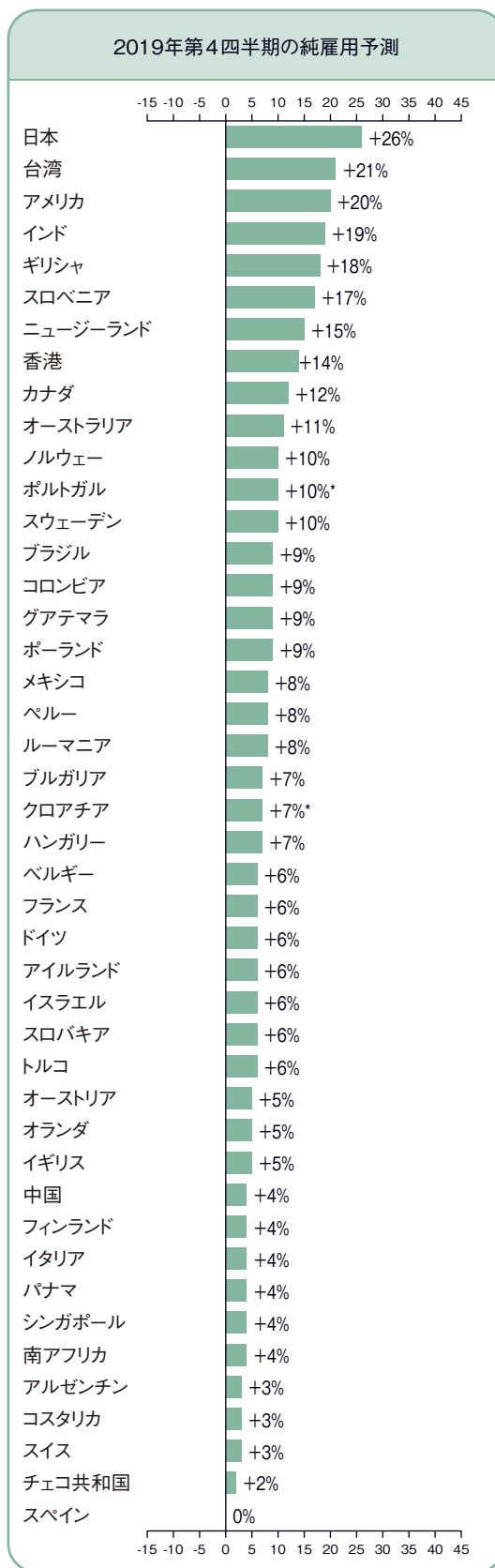
| | 2019年第4四半期 | 対前四半期比 | 対前年同期比 |
|--------|------------|---------|---------|
| | % | | |
| 北米・中南米 | | | |
| アルゼンチン | 2(3)* | 2(2)* | 1(1)* |
| ブラジル | 8(9)* | -3(-1)* | 3(2)* |
| カナダ | 9(12)* | -7(0)* | -1(-1)* |
| コロンビア | 9(9)* | -2(-1)* | -4(-4)* |
| コスタリカ | 2(3)* | 1(-1)* | -4(-4)* |
| グアテマラ | 10(9)* | 2(-2)* | -3(-3)* |
| メキシコ | 8(8)* | -2(-2)* | -5(-5)* |
| パナマ | 5(4)* | 3(1)* | 1(1)* |
| ペルー | 7(8)* | -4(-2)* | 1(1)* |
| アメリカ | 17(20)* | -7(-1)* | 0(1)* |

| アジア・太平洋 | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 日本 | 23(26)* | 0(1)* | 1(1)* |
| オーストラリア | 12(11)* | 1(-2)* | -3(-3)* |
| 中国 | 4(4)* | -4(-4)* | -3(-3)* |
| 香港 | 14(14)* | -2(-2)* | -3(-3)* |
| インド | 20(19)* | 7(5)* | 6(6)* |
| ニュージーランド | 16(15)* | 6(2)* | 0(0)* |
| シンガポール | 5(4)* | -7(-7)* | -8(-8)* |
| 台湾 | 20(21)* | -5(0)* | 0(0)* |

| ヨーロッパ・中東・アフリカ(EMEA) | | | |
|---------------------|---------|----------|-----------|
| オーストリア | 4(5)* | -1(2)* | 0(0)* |
| ベルギー | 6(6)* | 3(3)* | 0(0)* |
| ブルガリア | 6(7)* | -3(0)* | -1(-1)* |
| クロアチア | 7 | -16 | -2 |
| チェコ共和国 | 2(2)* | -3(-1)* | -4(-4)* |
| フィンランド | 1(4)* | -6(0)* | -4(-4)* |
| フランス | 6(6)* | -1(1)* | 4(4)* |
| ドイツ | 8(6)* | 2(1)* | -3(-3)* |
| ギリシャ | 12(18)* | -12(-1)* | 0(1)* |
| ハンガリー | 6(7)* | 5(6)* | -9(-10)* |
| アイルランド | 6(6)* | -4(-2)* | -3(-3)* |
| イスラエル | 5(6)* | -4(-1)* | -2(-2)* |
| イタリア | 3(4)* | 1(3)* | 2(2)* |
| オランダ | 5(5)* | -1(-1)* | 0(0)* |
| ノルウェー | 9(10)* | 0(3)* | 6(6)* |
| ポーランド | 8(9)* | -3(0)* | -4(-4)* |
| ポルトガル | 10 | -2 | 2 |
| ルーマニア | 3(8)* | -16(-4)* | -12(-11)* |
| スロバキア | 3(6)* | -8(-2)* | -6(-6)* |
| スロベニア | 16(17)* | -1(-2)* | 0(0)* |
| 南アフリカ | 4(4)* | 2(0)* | -2(-2)* |
| スペイン | -1(0)* | -3(-1)* | -5(-5)* |
| スウェーデン | 9(10)* | 0(2)* | 2(2)* |
| スイス | 2(3)* | 0(1)* | 5(5)* |
| トルコ | 2(6)* | -10(-2)* | -6(-6)* |
| イギリス | 5(5)* | 2(2)* | 1(1)* |

*()内は季節調整値を示します。

季節調整値：新卒採用など、雇用活動の季節的な変化による影響を排するように調整を加えた純雇用予測。この値を算出するためには17四半期以上のデータが必要なことから、値のない国もあります。



*未調整のデータを示しています。

マンパワーグループ雇用予測調査は四半期ごとにマンパワーグループが行っている雇用意欲を示す指標です。

2019年第4四半期のマンパワーグループ雇用予測調査は、44カ国・地域における59,000を超える組織を対象とした聞き取り調査をもとに実施されました*。調査にあたっては、すべての回答者に、「2019年10月から12月の貴社または貴機関の雇用計画は、今期と比べてどのように変化しますか?」という質問をしています。

マンパワーグループが行った2019年第4四半期の雇用予測調査によると、44カ国・地域中43カ国・地域で雇用増加が見込まれ、1カ国で雇用意欲の横ばいが予測されます。雇用意欲が最も高いのは日本、台湾、米国、インドおよびギリシャで、一方最も低いのはスペイン、チェコ共和国、アルゼンチン、コスタリカおよびスイスです。

前四半期比では、44カ国・地域中15カ国・地域で雇用意欲が改善し、23カ国・地域で減少、6カ国・地域で変化なしとなっています。前年同期比で見ると、15カ国・地域で雇用予測が改善し、23カ国・地域で悪化、6カ国・地域で変化なしとなっています。

北米・中南米地域では、調査した10カ国すべてでプラスの雇用予測を示しています。前四半期比では、2カ国で純雇用予測が増加し、7カ国で減少しています。前年同期比では、5カ国で雇用意欲が改善し、5カ国で減少しています。この地域で最も高い雇用意欲を示しているのは米国とカナダです。一方、雇用意欲が最も低いのはアルゼンチンとコスタリカです。

ヨーロッパ・中東・アフリカ(EMEA)地域では、26カ国中25カ国で雇用の増加が見込まれる一方、スペインでは労働市場の横ばいが予測されます。前四半期比では10カ国で増加しているものの、12カ国で減少しています。前年同期比では、8カ国で増加し、14カ国で減少しています。この地域で来四半期の雇用意欲が最も高いのはギリシャおよびスロベニアです。一方、この地域で雇用意欲が最も低いのはスペイン、チェコ共和国およびスイスです。

アジア・太平洋地域では、来四半期は8カ国・地域すべてにおいて雇用の増加が見込まれます。前四半期比で純雇用予測がプラスとなるのは3カ国・地域で、4カ国・地域でマイナスとなっています。前年同期比では、2カ国・地域でプラス、4カ国・地域でマイナスとなっています。この地域で雇用意欲が最も高いのは日本と台湾です。一方、この地域で最も雇用意欲が低いのは中国およびシンガポールです。

今期の調査対象44カ国・地域の個別の調査結果の全文、および地域・国際比較は、

www.manpowergroup.com/meos

をご覧ください。

次回のマンパワーグループ雇用予測調査は2019年12月10日の発表予定で、2020年第1四半期の雇用予測について詳しく報告します。

* 季節調整後のデータがある場合は、それに基づいた分析を行っています。クロアチアとポルトガルのデータは現時点では季節調整が適用されていません。

この調査について

マンパワーグループ雇用予測調査は、来四半期における従業員数の増減について、雇用主の意向を調べるために四半期ごとに実施されています。

マンパワーグループが行うこの総合雇用予測調査は、55年以上の歴史を持ち、世界で最も信頼性の高い雇用予測調査に数えられます。マンパワーグループ雇用予測調査の成功は、以下のようなさまざまな要素に裏打ちされています。

独自性 規模、範囲、歴史、および明確に焦点を絞っているという点で、他に類を見ない調査です。

予測 マンパワーグループ雇用予測調査は世界で最も広範囲にわたる事前調査で、雇用主を対象として来四半期における雇用意欲を調査するものです。これに対して、他の調査や研究は、過去のトレンドのデータを報告することを主眼としています。

独立性 調査の実施にあたっては、すべての対象国・地域の代表的な雇用主から回答を集めます。調査対象組織は、マンパワーグループの顧客基盤とは無関係です。

信頼性 本調査では、世界44カ国・地域の59,000を超える公的機関・民間企業への聞き取り調査をもとに、各四半期の雇用動向を予測しています。このようにして回答を集めることで、各業種や地域の動向を分析し、より詳細な情報を提供することが可能になっています。

定点観測 本調査は55年以上にわたり、次のような一定の質問で、各項目のあらゆる情報を提供しています。

2019年第4四半期の調査にあたっては、全世界の調査対象組織に、「2019年10月から12月の貴社または貴機関の雇用計画は、今期と比べてどのように変化しますか？」という共通の質問をしています。

調査手法

マンパワーグループ雇用予測調査の実施にあたっては、市場調査の最高水準を満たす信頼性の高い手法が用いられています。本調査は、各国の経済状況を反映するように構成されています。ほとんどの国・地域・グローバルの各データの誤差は、±4.0%の範囲に収まっています。

純雇用予測

本調査では、「純雇用予測」という用語を使っています。これは、来四半期に「増員する」と回答した企業の割合(%)から、「減員する」と回答した企業の割合(%)を引いた値です。こうして算出した数値が純雇用予測となります。特に注意書きがない限り、最低17四半期分のデータの蓄積がある国・地域の純雇用予測は、季節調整後の値で示されています。

ポルトガルとクロアチアを除き、すべての調査対象国のデータには、季節調整が適用されています。マンパワーグループでは、データをさらに蓄積し、将来的にはポルトガルについても季節調整を適用する予定です。なお、2008年第2四半期以降は、データの季節調整にTRAMO-SEATS法を採用しています。

マンパワーグループについて

マンパワーグループ(NYSE:MAN)は、ワークフォースソリューションを提供する世界有数の企業であり、組織を成功に導く人材の確保、評価、育成、管理に関わるサービスを提供することで、急速に変化する働く世界の組織変革を支援しています。数百万もの人材に有意義で持続可能な仕事を見出すことで、幅広い業界や業種に優れた人材を紹介。毎年何十万もの組織のために革新的なソリューションを提案しています。マンパワーグループブランドである Manpower®、Experis®、Right Management®、ManpowerGroup® Solutions を通じて、70年近くにわたり、世界80の国と地域における求職者と顧客に価値あるサービスを提供しています。2019年には「世界で最も倫理的な企業」の1社に選出されて10年目となったほか、フォーチュン誌でも「世界で最も賞賛される企業」の1社に選ばれてから17年目となり、業界で最も信頼され賞賛されるブランドであることが改めて認められました。働く世界の未来を活性化するマンパワーグループの活動については、www.manpowergroup.com をご覧ください。

日本法人について

1948年米国で誕生したスタッフィングビジネスのリーディングカンパニーであるマンパワーグループの100%出資の日本法人で、1966年に設立された日本で最初の人材派遣会社です。“マンパワー”は人材派遣の代名詞として広く急速に認知され、常に業界のパイオニアとしてサービスシステムの構築や、クオリティマネジメントの重視など先駆者的役割を果たしてまいりました。現在では、労働者派遣事業に加え、有料職業紹介事業、再就職支援事業、アウトソーシング事業、ITソリューションサービス事業、コンサルティング事業など、総合人材サービス会社として全国で幅広いサービスを展開しています。

ホームページURL: www.manpowergroup.jp

所在地: 〒220-8136

神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1
横浜ランドマークタワー 36F

代表者: 代表取締役社長 池田 匡 弥

資本金: 40億円

設立年月日: 1966年11月30日

事業内容: 総合人材サービス全般

- ・労働者派遣事業
- ・有料職業紹介事業
- ・再就職支援事業
- ・アウトソーシング事業
- ・ITソリューションサービス事業
- ・コンサルティング事業

登録者数: 54万1,000人(2019年4月現在)

マンパワーグループ株式会社
〒220-8136
神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1
横浜ランドマークタワー 36F
www.manpowergroup.jp

©2019 ManpowerGroup. All rights reserved.